



小池 光選

更新のマイナカードのわが写真晩年の母に出会ふがごとし
横濱市 高山 克子

【評】十年たつてマイナンバーカードの更新となる。そこに載せる顔写真、これはいったいこの誰か、まるで晩年のわが母のようだ。愕然として驚く。残酷なり、顔写真。
集落に郵便ポストが無き故に町営バスにて赴く暮らし

【評】いまの日本には、こういう集落が点々とあるのだろう。町営バスに乗ってポストのあるところまで行く。そうして歌壇の投稿歌を出す。選する者として頭が下がる思いだ。頑に現金払いする吾に投入せかすセルフレジスター
堺市 堀江五百子

【評】セルフレジとかいうものができて現金払いはもはや少数派。現金がなんで悪い。せかされて不愉快。この気持ちよく分かる。お互ひに三十代があつたねと今夜のわが家は豚生姜焼き
東京都 福島 隆史

あちこちの欠けし腕もてあ母よあなたのことばを食べております
垂水市 岩元 秀人

梅の実の色づく庭の前を過ぐ散歩の途中の二千歩あたり
仙台市 千葉 幸平

相席の見知らぬ人に声をかけ会話始まる伊勢参りの旅
新潟市 古泉 浩子

風が吹きまたあたらしい季節だね履歴書持って白シャツを着て
鳴門市 楠井 花乃

玄関の脇のアカシやどうなった大連郊外警察官舎の
郡山市 遠藤 雍子

ポケットに何も入れずに歩きゆく月の涼しき真夏の夜道
北名古屋市 月城 龍二

栗木 京子選

竹やぶに静けさ戻り来年もよろしくの札薫風に揺る
八幡市 町井扶公子

【評】たけのこ掘りの期間、馴染みの人たちに竹林を開放するのだろう。収穫の時期が過ぎると静けさが戻り、初夏の風が吹き渡る。「来年もよろしく」の札に心がなぐむ。
夫の友は稚鮎を釣りにてその妻の絶品甘露煮今年も届く

【評】夫の友人が釣った稚鮎。その妻が甘露煮に仕上げて、届けてくれた。友人夫妻の合作だと思つと、いっそうおいしく感じる。「今年も」に交流の長さがうかがえる。
つれあいは梅雨がきらいというけれど花びらの上の白玉を見る
古賀市 砂山ふらり

【評】暗く湿ったイメージの梅雨だが、花びらに光る水滴には独特の美しさがある。宝物のような輝きを秘めた「白玉」が印象的。
鉄道があつた時代が懐かしい震災以後はバスだけ走る
大船渡市 富谷 英雄

土俵入りは雲竜型と大の里辰年に生れ雲に乗りゆく
さいたま市 桜井 瑞枝

綱打ちに混じる大関琴桜つぎは俺よと奮ひ立ちむか
奈良市 藤原 孝子

子を持たぬ生涯ゆゑに吾は吾を育てむ春より美大に通ふ
行田市 小枝 鷹緒

アパートを出てゆくヒトよ初めての会話は別れの挨拶となりぬ
青森県 田口 昭子

医療機器体験フェアにて一時間不調の全て消えた気になる
和歌山県 川端真由子

糖尿歩け歩けと言われても山頭火にはなれぬぞ我は
長野市 遠藤ゆり子

俵 万智選

大人しく寝ている蛇を踏むようにぐにぐにゆく歩く雨後の校庭
宇部市 常田 瑛子

【評】雨水でドロドロになった校庭を歩く時の、得体の知れない感触。加えて、おっかなびっくりの感じが、寝ている蛇の比喩で見事に捉えられた。
消しゴムに消すも白紙に残りたる筆圧のごとき君との二年
長野市 原田 浩生

【評】鉛筆で書かれた文字は、いちおう消すことができる。けれど強い筆圧で書かれたそれは、紙へのくぼみとして残り続ける。君との二年は、消せないそのくぼみなのだ。
親らしくなるのだろうかまたきみを生かしただけで終わる一日
朝霞市 桐島 あお

【評】乳幼児を育てている時の不安とアレックスが、ストリートに伝わってきて胸を打たれた。生かしただけで、まずは立派ですよ！明らかに幸せそうだと雨を見て「幸か不幸か」と言ってる君は
大阪市 原 拓

あなたという言葉にひとつ穴がありわたしの綿を詰めてあげたい
東京都 石川 真琴

ひとつずつ今が過去へと呑み込まれエスカレーターが時を運べり
宮崎市 長友 聖次

暖かな上着のような思い出をまとい微笑む卒寿の父は
平塚市 小林真希子

意外また意外のつきも意外なる向きへ移れり庭に来し蝶
東和山市 板坂 寿一

横顔のきみしか思い出せない初めて気づくハナミズキの前
相模原市 榎本 ハナ

大人とはあきらめ上手なのだろうそれなら我は子どもでいたい
さいたま市 小川 希空

黒瀬 阿彌選

声帯は筋肉なればひとり居の長電話これも筋トレ中なり
福山市 金尾 洵子

【評】なるほど、私たちはおしゃべりすることと声帯の筋肉を鍛えている、と。そう思えば長電話にも張り合いが出来ますね。ひとりの生活の中での、心のやすらぎです。
シャッター街なんていうけどシャッターを上げ下ろしする人はまだいる
大阪市 畑 依裕

【評】閑散としたシャッター街に見えても、閉められた店舗の奥に住む人はいる。見かけだけで「人がいない街」などと決めつけるのは、よそ者の身勝手な思い込みなのです。
回収に出したる紙が再生し知らずに会ふこともあらむか
松山市 山田 好司

【評】生々流転、存在のすべては巡り移る。古紙回収の折りに、ふとそんなことに思い至った。普段の暮らしから真理を見つめる心。谷戸の地の棚田に苗を植ゑゆけりうぐひす蛙に励まされつつ
匠達市 椎名 昭雄

僧ヶ岳は田植えしかり見届けて「おいとまします」と雪絵消しゆく
黒部市 新酒 律子

ポラロイドカメラで撮りし亡き甥の姿だん薄れてゆけり
対馬市 神宮 齊之

ざわざわと心の騒ぐ日も過ぎて機種変更をしよつかと思ふ
東京都 山口多津子

鹿児島は夜は愉しきもよめきつつ焼酎市場まはりゆく旅
鹿嶋市 加津牟根夫

タクラマカン砂漠に立ちて望み見る遠き鉄道長き列車を
宇都宮市 川辺 俊子

みがかれた床に映りし我が心よ斜陽館を訪ねる五月
調布市 高坂 愛子